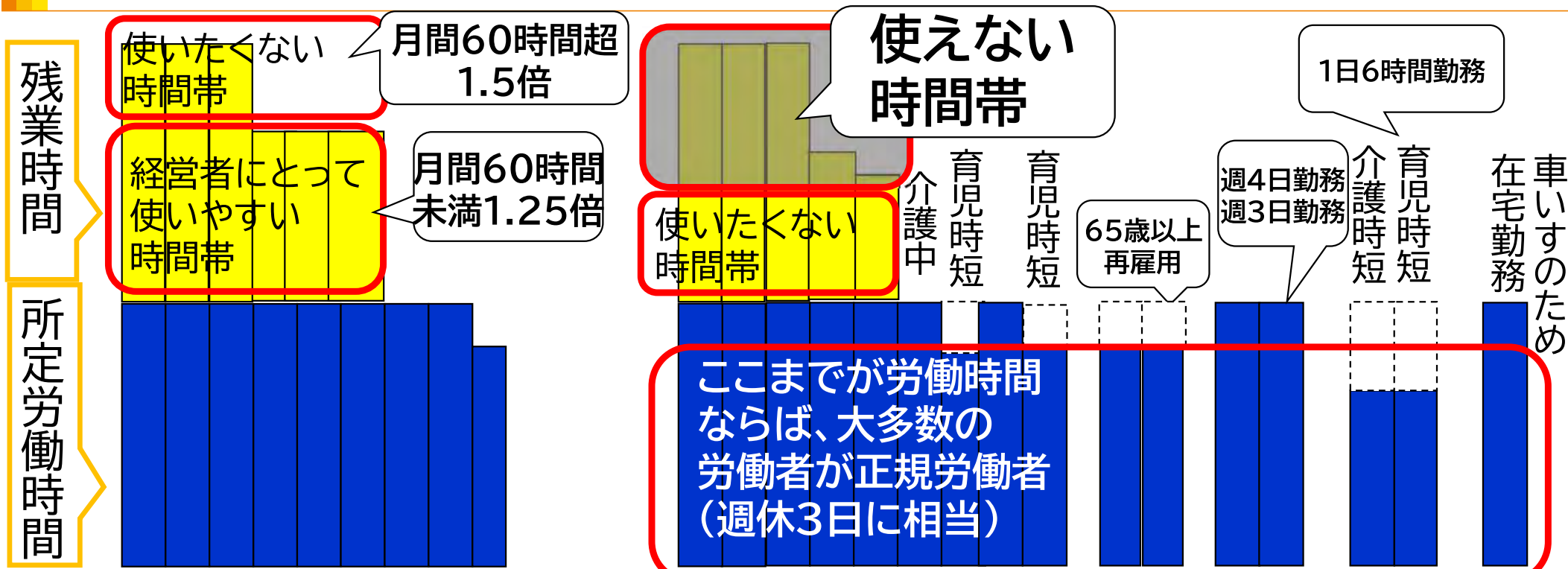


少子化打破・自殺減少・業績向上のために すぐにやったら良いと考えること

- 1:勤務間インターバル11時間の重要性を「周知・公表・環境整備義務化」
- 2:勤務間インターバル11時間を就業規則明記の企業に奨励金
- 3:教員働き方改革を進めるための「給特法廃止」
- 4:国会会期を含めて22時～朝7時(9時間)は、省庁を閉鎖
- 5:公立学校の生徒に年間10日間の「有給」のような休み。

ゆがんだ構造を修正し、一億総モチベーションアップする 「多様な働き方・デジタル・労働分配」が進む構造を作る



一部の**24時間型人材**に思い切り仕事をしてもらうのが、儲かるマネジメント。いざという時、残業が頼める人の評価が高い。育児中・介護中・治療中などの**時間制約社員**は極力採用したくない。男女の賃金格差は縮まらない●優秀な人間が朝まで安く使えるので、**デジタル投資もしない**。
●残業代が毎月、どれくらいかかるか読めないなので、残業代の原資を確保しておきたいので**ベースアップをしたくない**。

絶対使えないゾーンが出来ると、一人が情報を抱え込むことができなくなり、見える化・共有化が進む。時短勤務者が仕事をしやすくなる。経営者は、週3勤務者や、短時間勤務者を積極的に採用・活用・評価するようになり、**非正規の正規化が進む**。時間内で生産性高く仕事をする人材が評価されるので、**男女の賃金格差が埋まる**●時間内で終わるためには、人海戦術の限界が来るので**個人も企業もデジタル投資が進む**●残業代は一定内に収まることを読めるので原資が生まれ、**ベースアップが怖くなくなる**。

勤務間インターバルがもたらす好循環



- ① トラブル対応になった翌日は遅出の配慮をされることで、前日の頑張りを認められている実感から、**職場への信頼・満足度向上**
- ② 深夜まで孤独に育児をしていた妻が、夫が帰宅している間は睡眠を取れる→**産後うつ**の悪化による**自殺や虐待、離別**が防げる
- ③ 睡眠不足による、脳の扁桃体肥大化や前頭前野の機能低下を改善できる→**不眠**による**上司のパワハラや、モラル崩壊・不祥事**を防ぐ
- ④ 睡眠の後半が取れることで、日々ストレスをクリアして出勤。周囲からのプレッシャーに耐えられる**ストレス耐性を復活**させ**うつ病**を防ぐ
- ⑤ テレワークならば、インターバルを1時間短縮できることによって、企業の**テレワーク利用促進が進み、コロナ等の感染抑制**にも。**睡眠は病気への免疫力も上げる。**
- ⑥ 国民がAI並みに優秀で忍耐強く安かったことで進まなかったデジタル投資。ついに**経営者がデジタル投資したほうが良いと判断**する。
- ⑦ 多くの人を巻き込む交通事故や、希死念慮から起きる多くの人を巻き込んだ事件が減少し、**加害者も被害者も減らすことができる。**
- ⑧ 親の生活リズムに引きずられて睡眠不足によるうつ症状が子どもに多く、若年層の死因1位が「自殺」なのは 先進国で日本だけ。**親だけでなく子の睡眠も改善する。**
- ⑨ 忙しさからお互いを責めあう両親ではなく、ゆとりをもって協力しあえる両親と過ごす**子どもの自己肯定感が向上する。**(日本の子どもの自己肯定感は先進国で最低)

新しい資本主義・人的投資に、、

最大の「分配」とは「健康に働き続けられる労働環境」であり、中でも「**11時間の勤務間インターバル**」は、人間の創造性と生産性を向上させ、精神疾患・過労死・過労自殺をなくす**働く環境のインフラとして重要だ。**

これを職場のマネジメントが理解・実施できる環境を支援する制度構築を検討する。

という一文をいれてはどうでしょうか。

The background features three overlapping circles of varying colors: a large red circle on the left, a medium orange circle in the center, and a smaller yellow circle on the right. The circles overlap in a way that creates a central area where all three colors meet.

参考